



建物外観（撮影：雁光舎）

建築概要

建設地：東京都千代田区一ツ橋 2-3-1
 建築主：小学館不動産株式会社
 設計：株式会社日建設計
 施工：鹿島建設株式会社
 建築面積：1,661.71㎡ 延床面積：17,910.73㎡
 階数：地上 10階、地下 3階 高さ：51.39m
 構造種別：地下 鉄筋コンクリート造、
 地上 鉄骨鉄筋コンクリート造、
 塔屋 鉄骨造

選評

免震構造に「チューブ構造」と呼ばれるモノコックな外殻を組み合わせて免震効果を高めるだけに留まらず、省エネや室内温熱環境の定常化など環境デザインまで統合された意欲的な作品である。開口の小さい外殻で水平力に抵抗するRCチューブ構造、外断熱により躯体を蓄熱と放射面に活用した放射式空調、PCaと現場打ちをハイブリッドした凹凸スラブに設備配管などを納めて天井内寸法をコンパクトに抑えるなど、意匠、構造、設備、施工に至る一体的な設計が結実している。特に放射式空調の採用は、働き方にフィットした時間帯に左右されない安定的な執務空間の獲得に貢献しており、現地審査でもその快適な温熱環境が確認できた。応募書類では閉鎖的な印象の外観が街並みにどのような影響を及ぼすのか気になったが、ミニマルなディテールによるファサードを実見して、その懸念は払拭された。免震クリアランスを確保するためにセットバックした外壁により開放性の高い歩行空間が生まれていることも評価できる。一方で、頻りに使用される各階のミーティングコーナーが大通り側でなく裏の路地側に配置されていること、チューブの外側なので温熱環境にムラが感じられることが個人的には気になったが無用の口出しかもしれない。オフィスビルの新しい可能性を示した作品賞にふさわしい建築である。
 （下吹越武人）

建築主：小学館不動産株式会社 坂本憲治
 設計者：株式会社日建設計 向野聡彦、郡幸雄、早田友彦
 施工者：鹿島建設株式会社 増田孝弘

免震化した経緯及び企画設計等

本建物の設計要件として、本社建物における災害時の主要機能確保というBCPの視点から、高い耐震性を確保する構造の提案が求められた。また、都市計画道路による壁面後退や地区計画による高さ制限（40m）を満足し、旧本社ビルにおける事務室の床面積を確保しつつ、限られた階高の中で天井高さを2,800mmとする命題があった。それらの解決策として免震構造の採用や、RC壁によるチューブ構造、凹凸床組みなど様々な工夫を取り入れた。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

限られた階高（3,750mm）の中で天井高さ（2,800mm）を確保するためには天井懐を如何に小さく出来るかが大きなテーマであった。そのために免震構造を採用し、開口の小さい外壁を利用したチューブ構造とすることで、室内の梁成を抑え低めの階高でも有効な空間を確保した。また、天井に躯体放射空調方式を採用し、梁成内の凹凸形状の床組に放射配管、給気・排気・排煙、照明・スピーカー・各種センサーを組み込み、小さな天井懐で省エネ性と快適性の高い空間を構築した。特徴的な内外観は、建築、構造、設備が密に関連しており、それらを統合した建築をめざした結果であり、利用者の働き方に合致したオフィスの新しい計画を提案している。



事務室内観（撮影：雁光舎）

